

ちよつとしい話

～ 寺に行こう ～

info@zennyu-in.or.jp

昔から「袖^{そで}すり合^あうも他^{たしやう}生の^{えん}縁」と言ひまして、現在の状況全ては目には見えないけれど前世の何処かで、深く結ばれていた太い縁結びの糸があったと言う事です。「縁は異なるもの」と申しまして、善と悪が織り成す娑婆世界ですが、そこに生活している我々には悪行にまつわる話のほうが印象深く残ってしまします。残念ながら、何の因果^{いんが}か国が起こした戦争、悲惨なものでした。最近よく耳にされる言葉に犯罪時の「精神鑑定依頼」があります。今や世の中が「赤信号皆^{みんな}で渡れば怖くない」なんて言う言葉通りに成ってしまったら大変です。それこそ迷惑^{めいわくせんばん}千万な事態^{じたい}に陥^{おちい}ってしまします。私が心配するのはヤルセナイ思いを抱く者が大集団^{さつりく}を結成して殺戮^{さつりく}を計画し実行に移さないかと言う事です。抑圧^{よくあつ}を抱いている者達の欲求不満が爆裂し、個々で起してきた犯罪^{ふく}がネットを通して集められ千人、万人の集団に膨れ上がり、その集団が無差別殺人を起し、大義名分を「誰でもよかった」から「住みよい国を創^{つく}る為」に立ちあがったのだ。としたら如何^{いか}なものでしょう。過^かって日本が起こした戦争とそんなに違わないと思ひます。ですから私は犯罪が大きな集団になりクーデター（coupe d'état）的意味合^きいを持って来るのではないかと危惧^{きぐ}している訳です。逆に言えば、秋葉原の事件も大きな集団でなく、一人が起こした事件で良かったとも思えるのです。いずれにしても、被害^{ひがい}を受けるのは何時^{いつ}も弱い住民なのです。

皆様ご存じの通りです。ここで考えておかなければいけない事は弱い者同士が手を取り合って、協力しなくては生活出来ない事が起きるかもしれないと言う事です。そんな時、一番手っ取り早いのは檀那寺の活用でしょう。一旦いったん緩急かんきゆうあれば、昔から寺には駆け込み寺的に組織されたものがあります。寺は小さな集合体であり、檀信徒の方々の職業は様々です。故に、寺と寺がれんけい連携する事に依りよ自給自足は不可能ですが、最低の生活と精神面のケア(care)は充分出来る事でしょう。佛様を中心にパワー(power)みなぎるサークル(circle)は他に少ないと思います。所属される寺に集合すれば、慈愛に満ちた佛様がすが縫つなって来る者を見捨てるはずは御座いません。悪は悪とつな繋がり、善は善と結ばれるも、善は悪に犯されやすく、悪は善に染まりにくいのです。「袖すり合うも他生の縁」です。最終的に佛縁を結ばれた檀信徒の方々が協力しながら「うそ、偽り、騙だまし、憂慮ゆうりよ等」の無い社会生活を送れる、佛様の教えを尊そんしん信し、実践する必要に迫られると思えます。昔の寺は老若男女が集まり、信仰いやと癒しけんびを兼備する場を提供出来ていました。但し今日に於いても寺のへんかく変革はなく、変わったとすれば人間の生活スタンス(stance)でしょうか。現社会の人間は疲労かたまりの塊を背負い過ぎていませんか？己が肉体と精神のバランス(balance)が維持出来ていますか？寺に行き本尊様と自問自答した事がありますか？人間はバカではない。人は遅かれ早かれ又、寺の重要性に気が付く様に成ると私は信じております。拝む人のしんじょう真情を読み取って油掛地藏様の顔は変わるとか。「今日もまたおが拝む地藏の顔楽し」融ゆう融ゆう(とけあう)

善壽界善入院油掛地藏尊